

(参考資料1-1)

# 日常生活圏域ニーズ調査 モデル事業・結果報告書

平成22年10月

厚生労働省老健局

## <目次>

I	調査概要	
1	調査目的	1
2	調査概要	1
3	回収結果	1
II	回答者の属性	
1	年齢構成	3
2	認定状況	3
3	所得段階	3
4	住宅所有関係	3
5	世帯構成	3
III	調査結果の概要	
1	機能	5
2	日常生活	5
3	健康・疾病	6
IV	評価項目別の結果	
1	機能	7
(1)	運動器	7
(2)	閉じこもり予防	8
(3)	転倒	10
(4)	栄養	12
(5)	口腔	13
(6)	認知	14
(7)	うつ予防	18
(8)	虚弱	19
(9)	二次予防対象者	21
2	日常生活	22
(1)	手段的自立度（IADL）	22
(2)	生活機能総合評価	23
(3)	日常生活動作（ADL）	24
3	社会参加	27
(1)	知的能動性	27
(2)	社会的役割	28
V	健康・疾病	
1	疾病	30
(1)	高血圧	30
(2)	脳卒中	30
(3)	心臓病	31
(4)	糖尿病	31
(5)	筋骨格系疾患	32
(6)	がん	32
2	主観的健康感	33
VI	介護	
1	既往症	36
(1)	脳卒中	36
(2)	認知症	36
2	介護の状況	37
(1)	介護の必要性	37
(2)	介護者	37
(3)	利用している在宅サービス	38

# I 調査概要

## 1 調査目的

日常生活圏域における高齢者の地域生活の課題を探り、それらの課題を踏まえた介護保険事業計画を策定することが求められていることにかんがみ、課題の抽出調査及びデータの分析手法等についてのモデル事業を実施し、第5期（平成24～26年）介護保険事業計画の適切な作成に向けた指針に係る基礎情報を得ること等を目的とする。

## 2 調査概要

- (1) 調査地域 全国57保険者
- (2) 調査対象 65歳以上の高齢者（要支援・要介護認定者を含む。）
- (3) 調査対象者数 35,910人
  - ①家族・生活状況
  - ②運動・閉じこもり
  - ③転倒
  - ④口腔・栄養
  - ⑤認知機能
  - ⑥日常生活
  - ⑦社会参加
  - ⑧健康
- (4) 調査方法 郵送による配布・回収を行ったうえ、補足調査として訪問調査を実施（一部市町村では、郵送のみの調査を実施）
- (5) 調査時期 平成22年5月14日～8月18日

## 3 回収結果

- (1) 調査対象者数 35,910人
- (2) 有効回収数 30,493人
- (3) 有効回収率 87.0% （登米市、名張市、東近江市を除いて算出）

図表 調査の実施状況

都道府県	NO	市町村 (保険者)	郵送 調査期間	補足 調査期間	配布数(a)	回収数(c)	回収率(c/a)	有効回収数 (d)	有効回収率 (d/a)
北海道	1	福島町	6/10~6/22	7/1~7/9	200	191	95.5%	191	95.5%
青森県	2	五所川原市	6/25~7/7	7/8~7/23	1,993	1,634	82.0%	1,632	81.9%
岩手県	3	一関地区 広域行政組合	5/31~6/18	6/28~7/2	1,408	1,342	95.3%	1,338	95.0%
宮城県	4	登米市	8/2~8/13	8/16~8/18	649	608	93.7%	—	—
	5	横手市	6/18~6/30	7/1~7/5	25	25	100.0%	25	100.0%
秋田県	6	本荘由利広域 市町村圏組合	5/20~6/10	6/11~6/17	25	25	100.0%	25	100.0%
山形県	7	最上町	6/1~6/25	6/7~7/13	2,583	2,470	95.6%	2,465	95.4%
福島県	8	西会津町	5/24~6/15	6/18~6/24	120	115	95.8%	115	95.8%
	9	東海村	6/7~6/28	7/1~7/12	100	87	87.0%	87	87.0%
	10	神栖市	6/5~6/15	6/21~7/7	109	91	83.5%	90	82.6%
栃木県	11	益子町	5/30~6/11	6/14~6/18	100	99	99.0%	99	99.0%
	12	洪川市	6/23~7/7	7/14~7/23	400	392	98.0%	389	97.3%
群馬県	13	明和町	6/18~6/30	7/5~7/16	996	961	96.5%	958	96.2%
埼玉県	14	上尾市	5/24~6/15	6/17~6/24	20	20	100.0%	20	100.0%
千葉県	15	浦安市	6/1~6/22	6/30~7/5	50	50	100.0%	49	98.0%
東京都	16	府中市	6/22~6/30	7/5~7/8	20	19	95.0%	19	95.0%
新潟県	17	小千谷市	5/20~6/15	6/17~6/24	20	20	100.0%	20	100.0%
富山県	18	砺波市	6/24~7/12	7/1~7/20	429	416	97.0%	414	96.5%
石川県	19	津幡町	6/12~6/21	6/24~6/29	700	644	92.0%	643	91.9%
福井県	20	坂井地区介護 保険広域連合	6/16~6/25	7/15~7/23	1,200	1,052	87.7%	1,051	87.6%
山梨県	21	北杜市	5/22~6/10	6/14~7/2	450	384	85.3%	380	84.4%
長野県	22	御代田町	5/21~6/4	6/11~6/31	2,686	2,070	77.1%	2,063	76.8%
岐阜県	23	岐南町	5/17~6/11	6/14~6/25	1,000	826	82.6%	825	82.5%
	24	富士宮市	6/21~7/2	7/2~7/9	58	50	86.2%	50	86.2%
静岡県	25	富士市	6/10~6/28	6/29~7/2	50	49	98.0%	49	98.0%
	26	掛川市	6/7~6/21	6/22~7/6	100	90	90.0%	89	89.0%
	27	碧南市	6/29~7/13	7/13~7/16	106	102	96.2%	102	96.2%
愛知県	28	一宮市	5/28~6/7	6/18~6/25	20	19	95.0%	19	95.0%
	29	高浜市	6/1~6/16	6/22~7/1	1,000	902	90.2%	896	89.6%
	30	名張市	5/26~6/16	6/31~7/4	150	91	60.7%	(91)	(60.7%)
三重県	31	東員町	5/28~6/14	6/14~6/30	230	218	94.8%	217	94.3%
	32	伊賀市	6/8~6/24	6/25~7/9	1,000	942	94.2%	936	93.6%
滋賀県	33	東近江市	7/28~8/13	8/14~8/18	76	58	76.3%	—	—
大阪府	34	高槻市	6/1~6/18	6/19~6/30	50	38	76.0%	36	72.0%
兵庫県	35	神戸市	6/11~6/25	6/26~7/9	100	82	82.0%	82	82.0%
奈良県	36	大和高田市	6/29~7/7	なし	1,500	943	62.9%	943	62.9%
和歌山県	37	紀の川市	6/21~7/12	なし	1,986	1,579	79.5%	1,579	79.5%
鳥取県	38	南部箕蚊屋 広域連合	5/21~6/18	6/21~6/28	2,000	1,952	97.6%	1,949	97.5%
	39	鳥取市	7/7~7/15	7/26~7/28	80	75	93.8%	75	93.8%
島根県	40	大田市	5/29~6/7	6/15~6/22	1,444	1,367	94.7%	1,363	94.4%
岡山県	41	西粟倉村	5/24~6/4	6/10~6/25	132	129	97.7%	129	97.7%
山口県	42	長門市	6/1~6/11	6/14~6/25	100	92	92.0%	92	92.0%
徳島県	43	鳴門市	5/27~6/10	6/8~6/30	1,000	890	89.0%	883	88.3%
香川県	44	高松市	6/14~6/24	6/25~6/30	600	481	80.2%	480	80.0%
愛媛県	45	松野町	5/20~6/20	なし	200	200	100.0%	200	100.0%
福岡県	46	行橋市	7/1~7/13	7/22~8/2	3,400	2,619	77.0%	2,593	76.3%
	47	大牟田市	6/16~6/25	6/28~7/5	400	370	92.5%	368	92.0%
佐賀県	48	伊万里市	6/1~6/25	6/28~7/2	20	14	70.0%	14	70.0%
長崎県	49	長崎市	5/17~6/11	6/4~6/18	82	80	97.6%	80	97.6%
	50	佐々町	6/25~7/7	7/9~7/20	982	956	97.4%	955	97.3%
	51	長洲町	6/9~6/16	6/17~6/28	726	726	100.0%	723	99.6%
熊本県	52	産山村	6/21~7/2	6/28~7/9	563	477	84.7%	476	84.5%
	53	錦町	6/1~6/10	6/25~7/2	784	702	89.5%	699	89.2%
大分県	54	臼杵市	6/1~6/11	5/25~6/18	1,178	1,078	91.5%	1,057	89.7%
宮崎県	55	えびの市	6/1~6/30	7/1~7/7	200	200	100.0%	200	100.0%
鹿児島県	56	大崎町	5/14~6/15	6/15~6/30	200	164	82.0%	163	81.5%
沖縄県	57	今帰仁村	6/10~6/25	6/17~7/9	110	105	95.5%	98	89.1%
<b>総数</b>					<b>35,910</b>	<b>31,381</b>	<b>87.4%</b>	<b>30,493</b>	<b>87.0%</b>

※ 4登米市 調査終了が遅れたため、今回の報告の対象外とした。

※ 18砺波市 配布・回収は調査員の訪問により行い、郵送による提出は希望者のみ行われた。

※ 21北杜市 郵送配布分のみの回収率: 176/200=88%、訪問調査分のみの回収率: 208/250=83.2%

※ 30名張市 対象者の年齢、要介護認定区分、所得段階のデータが得られていないため、今回の報告の対象外とした。

※ 33東近江市 調査終了が遅れたため、今回の報告の対象外とした。

※ 45松野町 郵送配布分のみの回収率: 20/20=100%

## II 回答者の属性

### 1 年齢構成

単位：人

性	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	総数
男性	(25.6%) 3,272	(25.6%) 3,269	(23.2%) 2,956	(16.0%) 2,040	(9.6%) 1,230	(100.0%) 12,767
女性	(20.7%) 3,665	(22.6%) 4,001	(23.4%) 4,151	(17.9%) 3,169	(15.5%) 2,740	(100.0%) 17,726
総数	(22.7%) 6,937	(23.8%) 7,270	(23.3%) 7,107	(17.1%) 5,209	(13.0%) 3,970	(100.0%) 30,493

### 2 認定状況

単位：人

性	非認定者	認定者								総数
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5		
男性	(89.5%) 10,883	(10.5%) 1,279	(2.1%) 255	(2.2%) 263	(1.9%) 233	(2.1%) 252	(1.1%) 129	(0.7%) 88	(0.5%) 59	(100.0%) 12,162
女性	(81.7%) 13,866	(18.3%) 3,102	(4.6%) 776	(4.6%) 788	(3.3%) 568	(2.6%) 440	(1.4%) 242	(1.0%) 165	(0.7%) 123	(100.0%) 16,968
総数	(85.0%) 24,749	(12.3%) 3,575	(3.5%) 1,031	(3.6%) 1,051	(2.7%) 801	(2.4%) 692	(1.3%) 371	(0.9%) 253	(0.6%) 182	(100.0%) 29,130

※認定区分データが得られなかった大田市の回答を除く。

### 3 所得段階

単位：人

性	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	第5段階～	不明	総数
男性	(0.9%) 118	(6.6%) 844	(14.5%) 1,848	(14.0%) 1,784	(59.1%) 7,550	(4.9%) 623	(100.0%) 12,767
女性	(1.6%) 291	(21.6%) 3,823	(11.5%) 2,033	(44.2%) 7,835	(16.7%) 2,964	(4.4%) 780	(100.0%) 17,726
総数	(1.3%) 409	(15.3%) 4,667	(12.7%) 3,881	(31.5%) 9,619	(34.5%) 10,514	(4.6%) 1,403	(100.0%) 30,493

### 4 住宅の所有関係

単位：人

性	持ち家	借家・借間	その他	無回答	総数
男性	(90.4%) 11,538	(5.2%) 661	(1.5%) 190	(3.0%) 378	(100.0%) 12,767
女性	(87.7%) 15,537	(6.3%) 1,113	(2.0%) 353	(4.1%) 723	(100.0%) 17,726
総数	(88.8%) 27,075	(5.8%) 1,774	(1.8%) 543	(3.6%) 1,101	(100.0%) 30,493

### 5 世帯構成

単位：人

性別	一人暮らし	配偶者と二人暮らし	配偶者以外と二人暮らし	同居(三人以上)	その他	無回答	総数
男性	(7.7%) 978	(34.2%) 4,372	(4.4%) 559	(44.5%) 5,680	(1.7%) 211	(7.6%) 967	(100.0%) 12,767
女性	(18.5%) 3,288	(20.3%) 3,594	(9.4%) 1,669	(42.8%) 7,593	(2.2%) 387	(6.7%) 1,195	(100.0%) 17,726
総数	(14.0%) 4,266	(26.1%) 7,966	(7.3%) 2,228	(43.5%) 13,273	(2.0%) 598	(7.1%) 2,162	(100.0%) 30,493



### Ⅲ 調査結果の概要

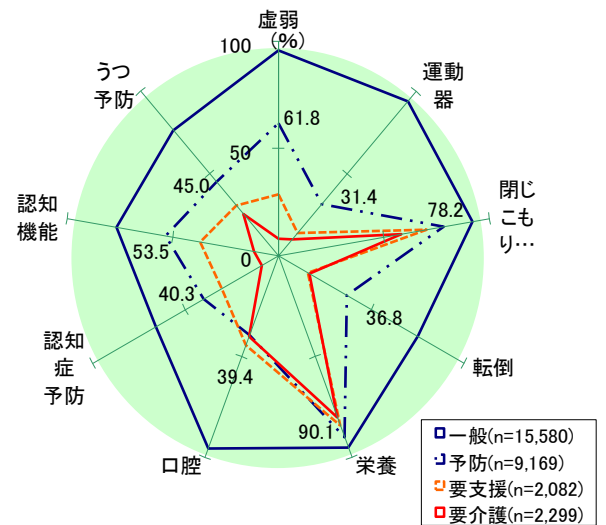
#### 1 機能

##### (1) 項目別評価結果

生活機能の各評価項目ごとの非該当者（リスクなし）の割合をみると、要介護・要支援認定を受けておらず、また二次予防事業の対象にもならない一般高齢者でその割合が最も高く、次いで二次予防対象者、要支援認定者、要介護認定者の順となっており、それぞれの生活機能のレベルを反映した結果となっている。

二次予防対象者選定の直接の条件になっていない認知症予防、認知機能、うつ予防、転倒、閉じこもり予防については、二次予防対象者に比べて率は低いものの、一般高齢者の中にも該当者（リスク者）が相当数いることがわかる。

図表 生活機能(非該当・リスクなしの割合)



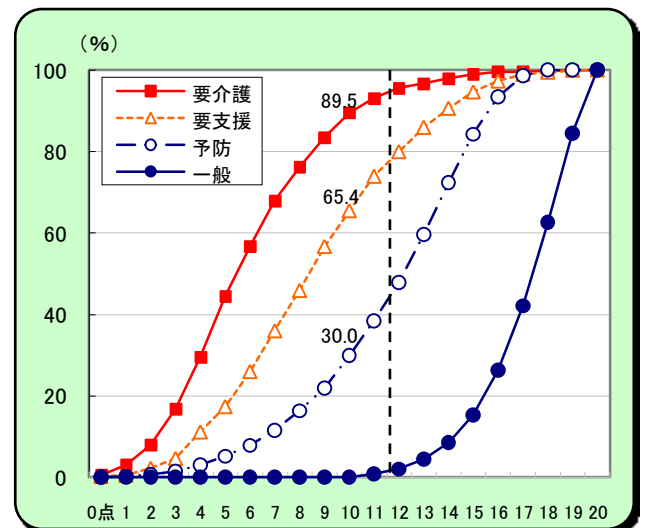
##### (2) 総合指標

基本チェックリストのうつ予防に関する設問を除く20問について、各設問で非該当となる回答をした場合を各1点として、その合計得点の分布を累積相対度数でみると、10点以下の割合は、二次予防対象者が30.0%、要支援認定者が65.5%、要介護認定者89.5%となっている。

この基本チェックリストの得点により、認定者を含めて高齢者の生活機能のレベルが把握できることがわかる。

10点以下の二次予防対象者については早目のフォローが、また11点以上の要支援・要介護認定者については予防給付などの予防効果の確認が必要と考えられる。

図表 基本チェックリスト合計得点(累積相対度数)



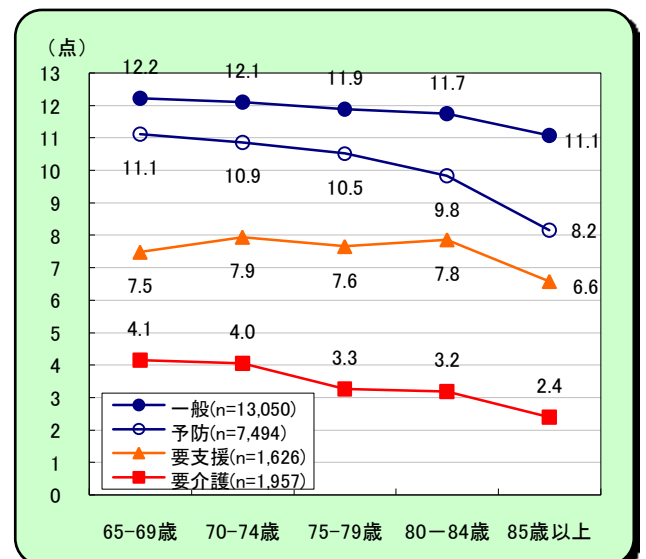
#### 2 日常生活

##### (1) 老研式活動能力指標(IADL)

IADLを中心とした高齢者の比較的高次の生活機能の指標として定着している老研式活動能力指標(13項目)について、その生活機能得点(平均)みると、いずれの年代で比較しても一般高齢者が最も高く、次いで二次予防対象者、要支援認定者、要介護認定者の順となっている。

認定の有無にかかわらず、年齢が上がるほどその得点は低下しているが、二次予防対象者でその低下幅が大きくなっている。

図表 認定状況別生活機能得点

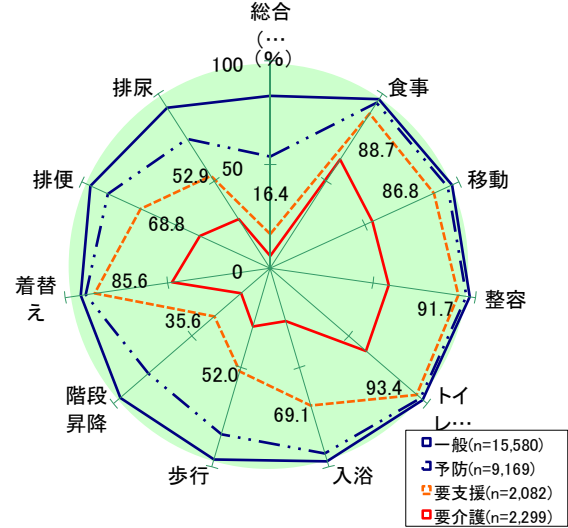


(2) 日常生活動作(ADL)

高齢者の日常生活動作 (ADL) の状況を見ると、「自立」と評価される者の割合は、いずれの項目でも一般高齢者が最も高く、次いで二次予防対象者、要支援認定者、要介護認定者の順となっている。

要介護認定者と二次予防対象者の中間に位置する要支援認定者についてみると、食事、移動、整容、トイレ動作については、いずれも自立の割合が9割前後になっている一方、階段昇降、歩行、排尿についてはそれぞれ35.6%、52.0%、52.9%と低下しており、日常生活動作の中でも、比較的早い時期に低下するものとうでないものがあることがうかがえる。

図表 ADL(評価項目別自立者割合)



3 健康・疾病

(1) 既往症

疾病の既往症の状況を見ると、要介護の原因となる脳卒中、心臓病、糖尿病、筋骨格系、外傷、認知症では、認定者の既往率が高くなっている。

要介護の原因疾病の中でも、脳卒中や認知症などは要介護認定者で既往率が顕著に高くなっている一方、筋骨格系では要支援認定者の既往率が最も高くなっており、要介護のレベルによって原因疾病の構成割合が異なっていることがわかる。

図表 疾病の状況(既往症)

疾病	単位: %			
	一般	予防	要支援	要介護
高血圧	37.5	43.8	50.3	41.4
脳卒中	1.5	4.0	10.6	16.8
心臓病	9.2	16.7	24.3	20.3
糖尿病	10.1	13.3	15.1	15.3
高脂血症	8.0	8.5	8.0	5.4
呼吸器系	7.2	12.0	13.1	14.3
消化器系	15.3	20.7	22.8	18.1
泌尿器・生殖器系	8.8	11.9	14.8	15.2
筋骨格系	10.2	23.7	42.4	26.5
外傷、中毒	1.7	3.2	4.1	4.2
がん	5.5	6.4	7.4	7.8
血液・免疫	0.9	2.0	3.1	2.6
感染症等	0.2	0.4	1.0	0.9
認知症	0.2	1.5	4.3	27.3
神経系	1.5	3.7	5.4	5.6
目	21.9	33.4	46.1	35.5
耳	7.4	12.1	14.7	10.4
皮膚	6.9	9.1	11.8	10.8
歯科	43.4	41.2	35.5	28.1

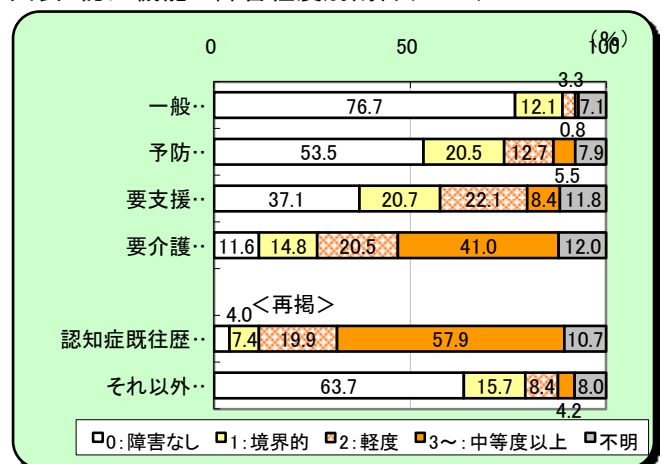
(2) 認知機能の障害程度

回答結果からCPSに準じて評価される認知機能の障害程度区分の分布をみてみると、認知機能の障害ありと評価される者の割合が最も高いのは要介護認定者で(76.4%)、次いで要支援認定者(51.2%)、二次予防対象者(38.7%)、一般高齢者(16.2%)の順となっている。

CPSで認知症の行動・心理症状がみられるのは3レベル以上といわれており、その割合は、要介護認定者で41.0%、要支援認定者8.4%、二次予防対象者5.5%になっている。率では低いものの、数では二次予防対象者のほうが要支援認定者より多くなっている。

認知症の既往歴の有無別にこの評価結果の分布をみると、既往歴ありでは85.3%が、それ以外では28.3%が障害ありと評価されている。

図表 認知機能の障害程度別割合(CPS)





## IV 評価項目別の結果

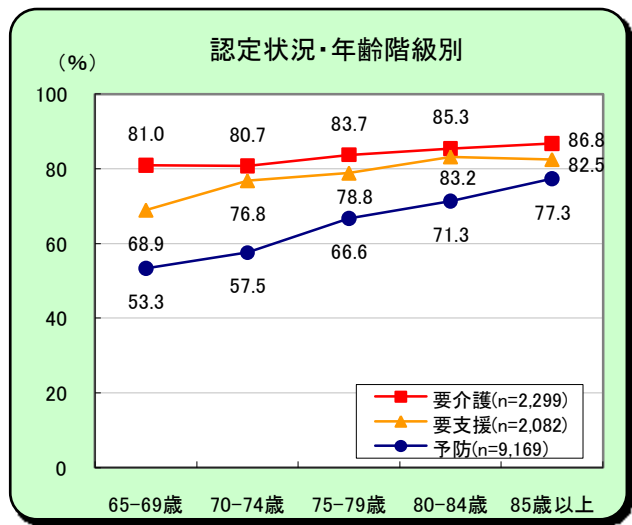
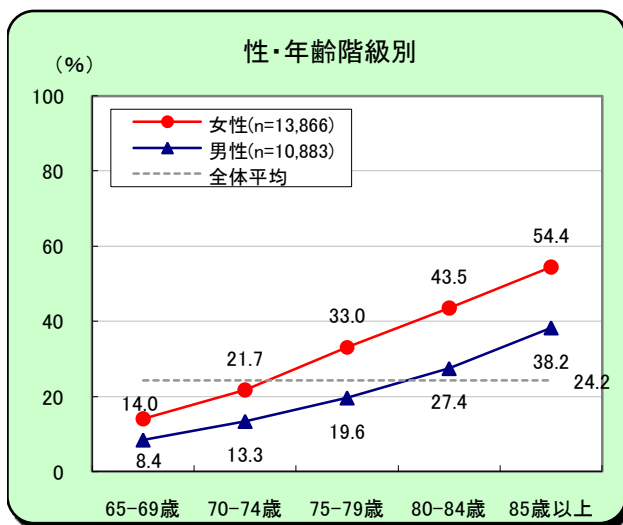
### 1 機能

#### (1) 運動器

##### ① 該当状況

- 基本チェックリストに基づく運動器の評価結果をみると、認定者を除く全体で24.2%、男性で17.5%、女性29.5%が該当者となっており、男性より女性のほうが、また年齢が上がるほど該当者割合が高くなっている。
- 二次予防対象者と認定者について評価結果を比較すると、いずれの年代でも要支援認定者、要介護認定者のほうが該当者割合が高くなっている。
- 二次予防対象者全体に占める運動器の該当者割合は65.4%と、基本チェックリストの評価項目の中で最も高くなっている。

図表 該当者割合(性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別)



※認定者を除く。

##### ② 回答状況

- 評価の基礎になった設問に対する回答結果を認定者と比較してみると、認定者の該当率(感度)が80%を超える設問が3問(問2-1・2、問3-2)、非認定者の非該当率(特異度)が70%を超える設問が3問(問2-2・3、問3-1)となっており、運動器に関する基本チェックリストの設問が高齢者の生活機能のレベルを示す設問として有効なことがうかがえる。

図表 回答結果

単位: %

設問(該当する回答)	非認定者(n=24,749)		認定者(n=4,381)		※特異度
	一般(n=15,580)	二次予防(n=9,169)	要支援(n=2,082)	要介護(n=2,299)	
問2-1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか(いいえ)	43.7		87.4		(56.3)
	26.8	71.9	85.1	89.5	
問2-2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか(いいえ)	23.8		83.6		(76.2)
	6.2	53.2	81.1	85.8	
問2-3 15分位続けて歩いていますか(いいえ)	21.2		72.7		(78.8)
	8.6	42.4	65.1	79.6	
問3-1 この1年間に転んだことがありますか(はい)	23.3		55.2		(76.7)
	10.8	44.1	53.6	56.7	
問3-2 転倒に対する不安は大きいですか(はい)	45.6		88.8		(54.4)
	26.3	77.2	90.1	87.6	

※特異度は、非認定者と認定者との比較(以下同じ)

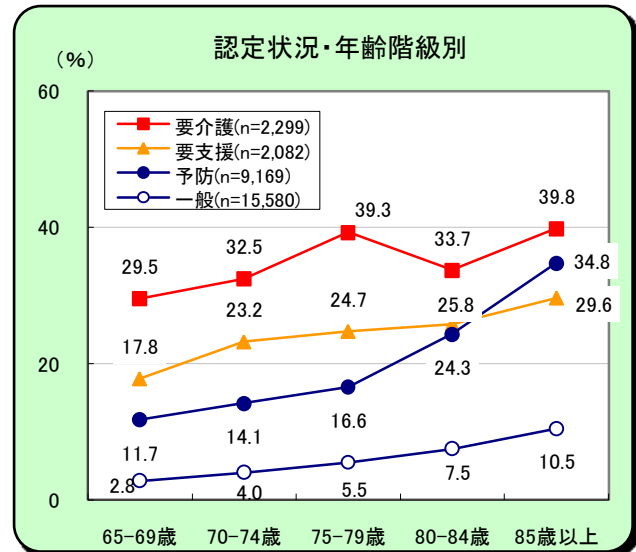
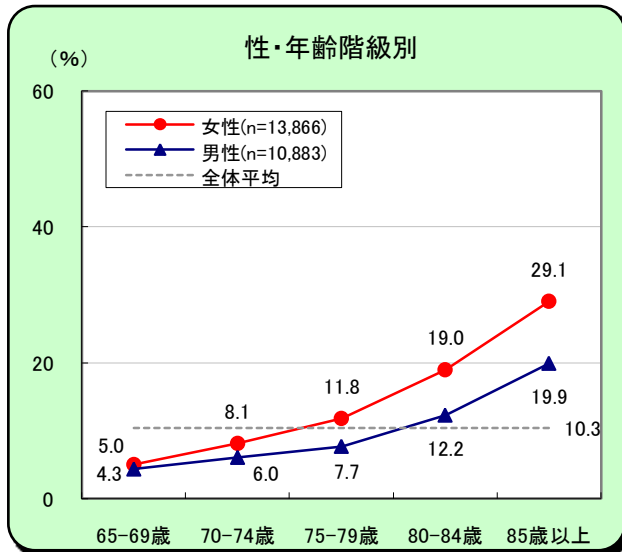
※無回答は除いて算出

## (2) 閉じこもり予防

### ① 該当状況

- 基本チェックリストの閉じこもり予防の該当状況をみると、認定者を除く全体で10.3%（男性8.0%、女性12.2%）となっており、やはり男性より女性のほうが、また年齢が上がるほど該当者割合が高くなっている。
- 認定状況別に結果をみると、全体では非認定者より認定者のほうが該当者割合が高くなっているものの、85歳以上では二次予防対象者のほうが要支援認定者よりも高くなっている。比較的生活機能が高い一般高齢者でも該当者割合は4.7%となっている。

図表 該当者割合(性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別)



※認定者を除く。

### ② 回答状況

- 評価の基礎になった設問に対する回答結果を非認定者と認定者とで比較してみると、認定者の該当率は33.3%、非認定者の非該当率は89.6%となっており、認定状況のある程度反映している。
- 関連する設問の回答をみると、閉じこもり要因の参考となる5m歩行の可否については、認定者では31.6%で、閉じこもりの該当率に近くなっている一方、非認定者では3.7%と、閉じこもりの該当率(10.4%)に比べてかなり低くなっている。認定者では身体的な要因、非認定者ではそれ以外の要因による閉じこもりが多いことがうかがえる。
- 外出目的別では、買物や趣味等で認定者と非認定者の差が大きくなっている。

図表 回答結果

単位: %

設問(該当する回答)	非認定者(n=24,749)		認定者(n=4,381)		特異度
	一般(n=15,580)	二次予防(n=9,169)	要支援(n=2,082)	要介護(n=2,299)	
問2-5 週に1回以上は外出していますか (いいえ)	10.4		33.3		(89.6)
	4.8	19.9	27.2	38.9	
<b>&lt;関連設問&gt;</b>					
問2-4 5m以上歩けますか (いいえ)	3.7		31.6		(96.3)
	0.8	8.6	21.1	41.1	
問2-6 昨年と比べて外出の回数が減っていますか (はい)	31.7		64.6		(68.3)
	18.5	53.9	69.1	60.4	
問2-8 外出する頻度はどのくらいですか ①買物 (週1日未満)	16.0		59.1		(84.0)
	10.9	25.0	47.1	73.9	
問2-8 外出する頻度はどのくらいですか ②散歩 (週1日未満)	18.7		49.6		(81.3)
	13.5	28.1	41.9	57.9	
問2-8 外出する頻度はどのくらいですか ③通院通所 (週1日以上)	35.9		63.7		(64.1)
	32.1	40.4	61.5	65.8	
問2-8 外出する頻度はどのくらいですか ④趣味等 (週1日未満)	32.3		74.7		(67.7)
	25.3	45.4	65.3	84.3	

設 問	選択肢	一般	二次予防	要支援	要介護
問2-7 外出を控えている理由は、次のどれですか	病気	2.0	10.1	19.3	24.9
	障害	0.3	3.3	9.9	19.2
	痛み	11.1	46.1	65.6	46.3
	トイレ	1.4	9.4	19.6	19.9
	耳の障害	1.8	8.1	12.5	9.4
	目の障害	1.3	6.1	12.4	9.0
	外の楽しみ	3.0	8.3	11.9	9.3
	経済的に	5.0	9.1	5.9	3.0

### (3) 転倒

#### ①設問と評価

- 今回の調査では、基本チェックリストの結果に基づく運動器の機能の評価に加え、転倒リスクについても別に評価ができるよう、設問が設けられている。
- 具体的には、杏林大学の鳥羽研二教授により開発された簡易式の転倒チェックシートの設問で、調査票の問3-1・3～5、問8-3の5問である（設問の表現については、その趣旨を変えない範囲で一部修正）。
- 内容としては、転倒経験（基本チェックリストと重複）、背中中の形状の変化、杖の使用、歩行速度、薬の多剤服用の有無となっている。
- 評価における各設問に対する配点は下の図表のとおりであり、転倒経験が5点、その他が各2点で、13点満点のスコアとして評価が可能である。
- スコアの評価としては、カットオフポイント6/7点で転倒予測の尺度として実用的とされているが、今回は介護予防も前提に6点以上を転倒リスクありとして評価している。

図表 転倒リスクの評価方法

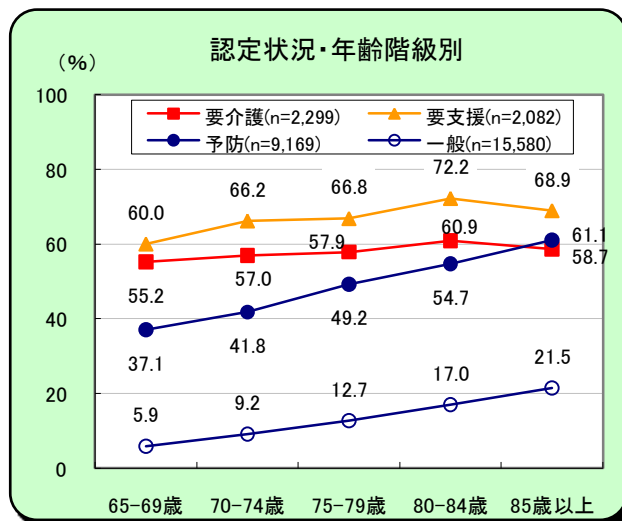
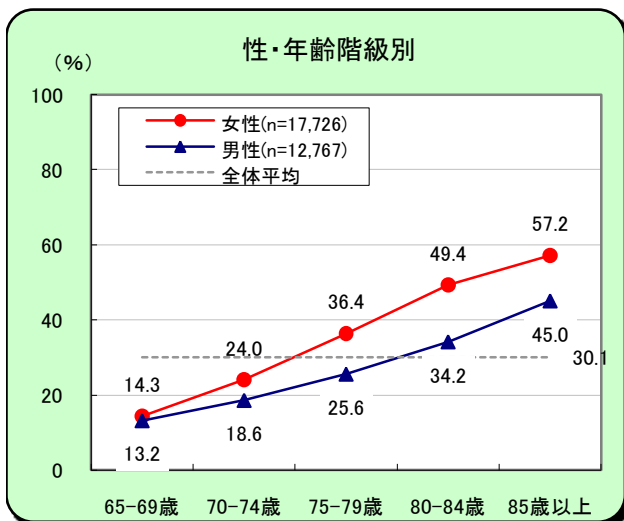
問番号	設問	配点と選択肢
問3-1	この1年間に転んだことがありますか	5:「1. はい」 0:「2. いいえ」
問3-3	背中が丸くなってきましたか	2:「1. はい」 0:「2. いいえ」
問3-4	歩く速度が遅くなってきたと思いますか	2:「1. はい」 0:「2. いいえ」
問3-5	杖を使っていますか	2:「1. はい」 0:「2. いいえ」
問8-3	現在、何種類の薬を飲んでいますか	2:「5. 5種類以上」 0:1～4または6

★6点以上でリスクあり

#### ②リスク状況

- 転倒のリスク者割合をみると、認定者も含む全体で30.1%（男性23.9%、女性34.6%）で、男性より女性のほうが、また年齢が上がるほどリスク者割合が高くなっている。
- 認定状況別に見ると、要介護認定者より要支援認定者のほうがリスク者割合が高くなっている。二次予防対象者では年齢が上がるとともにリスク者割合が急激に高くなっており、85歳以上では要介護認定者よりもリスク者割合が高くなっている。

図表 リスク者割合（性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別）



### ③回答状況

●評価の基礎になった設問に対する回答結果をみると、認定者の該当率が60%を超える設問が3問（問3-3～5）、非認定者の非該当率（特異度）が60%を超える設問が4問（問3-1・3・5、問8-3）あり、それぞれの生活機能レベルを反映した結果となっている。

図表 回答結果

単位：%

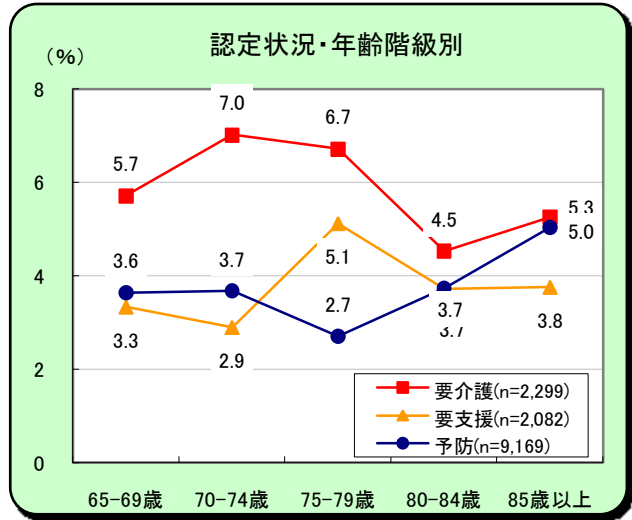
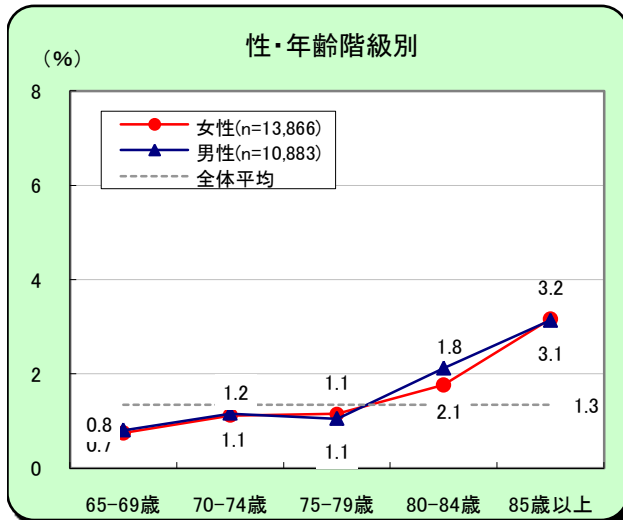
設問(該当する回答)	非認定者(n=24,749)		認定者(n=4,381)		特異度
	一般 (n=15,580)	二次予防 (n=9,169)	要支援 (n=2,082)	要介護 (n=2,299)	
問3-1 この1年間に転んだことがありますか (はい)	23.3		55.2		(76.7)
	10.8	44.1	53.6	56.7	
問3-3 背中が丸くなってきましたか (はい)	35.3		65.2		(64.7)
	25.1	52.4	65.0	65.5	
問3-4 歩く速度が遅くなってきたと思いますか (はい)	61.7		89.9		(38.3)
	47.4	85.8	92.4	87.3	
問3-5 杖を使っていますか (はい)	14.6		67.8		(85.4)
	5.4	30.0	74.8	60.7	
問8-3 現在、何種類の薬を飲んでいますか (5種類以上)	23.1		49.3		(76.9)
	13.9	32.7	56.6	48.6	

#### (4) 栄養

##### ① 該当状況

- 基本チェックリストに基づく栄養改善の該当状況をみると、認定者を除く全体で1.3%（男性1.3%、女性1.4%）が該当者となっており、該当者割合は他の項目に比べて非常に低い。年齢が上がるほど該当者割合が高くなっている一方、男女差は小さな項目となっている。
- 二次予防対象者と認定者について評価結果を比較すると、要支援認定者（3.9%）と二次予防対象者（3.6%）では該当者割合にほとんど差がない結果となっている。
- 二次予防対象者全体に占める栄養の該当者割合は低く、介護予防事業では対象者を個別にフォローする訪問型の介護予防事業が中心になるものと考えられる。

図表 該当者割合（性・認定状況・年齢階級別）



※認定者を除く。

##### ② 回答状況

- 評価の基礎になった設問に対する回答結果を認定状況別に比較してみると、各設問における認定者の該当率は低いものの、非認定者に比べるとかなり高くなっており、高齢者の生活機能のレベルに関連する指標として有効なことがうかがえる。
- 関連する設問の食事動作については、認定者と非認定者で回答結果に差がみられる。

図表 回答結果

単位：%

設問(該当する回答)	非認定者(n=24,749)		認定者(n=4,381)		特異度
	一般(n=15,580)	二次予防(n=9,169)	要支援(n=2,082)	要介護(n=2,299)	
問4-1 6カ月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか(はい)	14.6		29.3		(85.4)
	9.8	22.9	29.1	29.5	
問4-2 身長、体重 (BMI=体重/(身長×身長)<18.5)	7.0		17.1		(93.0)
	5.1	10.4	13.5	20.7	
<b>&lt;関連設問&gt;</b>					
問6-6 食事は自分で食べられますか(「一部介助があればできる」または「できない」)	1.1		22.0		(98.9)
	0.2	2.5	7.8	34.9	